令和4年度 第1回 安倍川水系流域委員会 議事要旨

■開催日時・場所

日時：令和4年10月21日（金） 13：30～15：00

場所：WEB 会議/対面会議

■出席者

戸田委員長、土屋副委員長、板井委員、大久保委員、竹内委員、三浦委員、湯浅委員

■議事内容

(1) 安倍川直轄河川改修事業の事業再評価について

- ・安倍川の計画河床はどの高さに設定されているか。30年ぐらい前は、事務所の方に、高水敷から3.5mというのが計画河床と聞いている。高水敷に水が乗らないように河道を下げる、あるいは堆積した土砂を除去することが必要と思う。
⇒現在は、計画河床という概念はなく、整備計画河床高で整理しており、整備計画流量を流すことを目標に整備を進めている。
- ・河道掘削による発生土砂は骨材に利用することが有効である。経費を抑えて、安定した河床となるようにお願いしたい。
⇒平成25年に策定した総合土砂管理計画では、通過土砂量について目標を設定している。総合土砂管理計画では、3年前の出水に伴う土砂堆積状況を踏まえ、年間40万m³の掘削計画を立て、計画に基づいた掘削を進めている。今回の出水でも実態を踏まえ、今後の掘削の方向性を決めていきたい。
- ・河道掘削を計画通りに進めれば水位低減効果は、目標を達成するのか。
⇒今回の出水では、掘削により計算上0.2m程度の水位低減効果を得た。
- ・川の中の生き物の生息は、支流や川岸の植生帯にかなり依存する。安倍川でも、洪水時に生き物は、支流や川岸の植生帯に避難しており、支流と本流がうまく連携して、本流の魚やその他の生き物の生息が保たれている。河道掘削の際には、支流との連続性をできるだけ保ってほしい。
⇒掘り方は、先生方とも相談しながら、生物に配慮した形にしていきたい。
- ・巨石付き盛土砂州に用いる巨石の大きさはどの程度か。安倍川には、巨石は殆どないが、どこから運んでくるのか。
⇒巨石付き盛土砂州の外縁に配置する径は70cm程度であり、その内側は60cm程度である。巨石の一部は、安倍川の砂防エリアから持ってきているが、大部分は富士川から持ってきている。
- ・全国的に巨石付き盛土砂州の事例はあるのか。

⇒常願寺川の事例がある。

- ・安倍川でこれから何か所、水制工が必要か、その想定ができるのか。

⇒巨石付き盛土砂州の設置箇所は、現時点では、現在施工を実施している桜町と慈悲尾の2か所、及びその他2か所の合計4箇所を予定している。巨石付き盛土砂州は、網状で流れが動くところについて、ある程度流れの方向を固定させるために、直線区間に設置している。もともと湾曲していて流れが変わらないところは、今までの水制工を考えている。

- ・河道掘削では大きい石が持っていかれ、細粒成分が残るという現象が起こっているように思う。今から12~13年以上前と思うが、南安倍川橋の上流の護岸工事の際に、河床の石を選択的に取ってほしい旨を申し上げ、大きな網でこして実施してもらった。現在、大臣管理区間の河床はかなり細粒化していると思うため、河床掘削の際は、アユを含む河川生物への配慮のため、大きい石を残す一手間をかけていただきたい。

⇒最近では選択的な掘削は行っていない。手間的に現場とも相談の上、対応を考えたい。

- ・選択的な掘削方法は、砂利組合等に問い合わせればわかるかもしれない。

⇒砂利組合へのヒアリングを実施する。

- ・実際に安倍川があふれるほどの雨が降った場合は、清水側で浸水し易い。安倍川直轄河川改修事業について、静岡市への意見聴取は行わないのか。

⇒安倍川直轄河川改修事業については、今の制度の中では県への意見聴取は実施するが、市は対象となっていない。現在、様々な外水や内水のハザードマップ作成に取り組んでおり、内水についても順次、各市町と話をしながら作成していくところである。

- ・河道掘削で運び出す石は20cm以下であり、人頭大以下の砂利、砂、石しか養浜には持っていない。安倍川の石は硬くて丈夫なので、砂防工事の発生残土に含まれる大きい石は巨石付き盛土砂州に利用すべきと思う。

- ・安倍川直轄河川改修事業については、対応方針（原案）どおり、必要な事業ということで継続ということによろしいか。

- ・対応方針（原案）について了解である。

(2) 前回委員会の指摘事項とその対応について

- ・昔は、油山川の下流のところに本流の滯筋の1本が必ず当たり、そこに大きな淵ができていたが、最近はずっと下流で合流している状態である。そのため、油山川にアユが少なくなっていると思われるので、合流状況の改善をお願いしたい。

- ・魚類確認種の経年変化については、各年の魚類分類精度が影響するので、見せ方や説明に留意して欲しい。河川区間別のアユの確認個体数のグラフについては、アユの生活史から下流側は必ず親も子供も通るところなので多く勘定され、上流は少なくなるため、時期と個体数の関係を示したいのであれば見せ方を工夫することが望ましい。

⇒表現方法は工夫する。

- ・油山川は、ここ5～6年でもって集落排水事業ができ家庭雑排水が入らなくなり、きれいになったが、水量が極端に少なく、通常、川としてはつながっていない。油山川では台風15号に伴う土石流により、新しい土砂、泥が全部河床にたまり、回復に時間を要する状態である。下流の土砂はある程度流れて、上流の土砂は人工的に取っているが、雨が降るたびに、シルト混じりの生き物に対して大変悪い土砂が供給される。
- ・各調査先の具体的な環境条件を踏まえた上で、生物環境のデータについて整理していくということも今後検討していければと思う。

(3) 令和4年9月23日～24日の台風15号による安倍川・大井川流域の出水状況について
質疑なし

(4) 前回委員会の指摘事項とその対応について
質疑なし

(5) 今後の進め方について

- ・台風15号では、ビワミズ沢や中小沢の砂防施設は土石流を捕捉しており施設の効果を実感した。
- ・台風15号の手越地点の流量はどの程度であったか。
⇒流量は、確認中である。

以上